

熊本大学医学部附属病院
病院長 猪股 裕紀洋 殿

謹啓 秋冷の候、貴殿におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

本年3月11日に発生しました東北地区太平洋沖地震にともなう東日本大震災に際しましては、本院へ多大なるご支援を賜りましたこと衷心より厚く御礼申し上げます。

今回の大震災は東北地方に未曾有の被害をもたらしました。本院においては、幸い人的被害こそありませんでしたが、ライフラインをはじめとして施設設備に損傷を受け、また発災直後は院内に必要な医薬品・食糧等の確保も困難な状況となりました。

このような状況下で、本院が被災地域拠点病院からの要請に応え、高次機能病院として重症患者を受入れ続けるとともに、避難所等への医療従事者の派遣と医薬品等の物資支援を継続し、大学病院としての責務を果たすことが出来たのは、多くの方々からの心温まるご支援によるものです。貴殿のご支援は本院の大きな支えとなり、全力で被災地の医療支援に取り組むことを可能としました。

大震災から7ヶ月余りが過ぎ、被災地では診療所の設置や臨時病棟の設置の計画がようやく動き出しましたが、甚大な被害の復旧復興には相当の時間がかかるものと予想されます。本院は、引き続き地域医療の「最後の砦」として大学病院の責務を全うする所存であります。

貴殿のこの度のご厚情に厚く御礼申し上げますとともに、今後ともご理解とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

甚だ略儀ではありますが、貴殿の益々のご発展を祈念申し上げ御礼に代えさせていただきます。

謹白

平成23年10月14日

東北大学病院長
里 見

